研究推進校事業報告書

（取組の成果とポイント）

・　平成 30 年度からの教科化をふまえて、道徳年間指導計画の見直しと別葉の作成を行った。一覧を作成することで、年間を見通した道徳授業計画を立てられるようにした。また、各教科や学校行事との関連付けを行い、学校教育全体で道徳教育を進めていくことができるようにした。

・　授業研究を行い、教材の提示、発問の工夫、話合いの方法などについて研究協議を行った。導入でどのように子どもの意識をつかむか、話合いを活発にするために発問や授業の形態をどうすればよいか、授業で使用した教材は有効だったか等について協議し、道徳の授業改善を進めることができた。

・　外部講師を招いた学習会を実施した。道徳の授業のあり方、進め方等について学習したり、授業研究の協議会で講師の助言をいただいたりした。今後の道徳教育の進め方について、方針を固めることができた。

・　学校行事や児童会活動と道徳教育とを関連付けして行い、道徳的意識を高めることができた。

１　研究推進校の概要

学　校　名	所　在　地	電話番号	児童数	備考
愛西市立草平小学校	愛西市草平町北田名５７番地	(0567)28-2569	３４５人	

２　研究課題

（１）考え、議論する道徳科をめざした指導法の工夫

（２）学校行事などを関連させた道徳授業の実践

（３）子どものよさを伸ばす評価の工夫

３　研究主題とその設定理由

『子どもをとらえ、よさを伸ばす道徳教育のあり方』

－考え、話し合い、道徳的諸価値の自覚を深める授業をめざして－

草平小学校の教育目標である『個性を伸ばし、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図るとともに、「生きる力」を醸成し、未来を切り拓き、社会の発展に尽くす児童の育成』の実現をめざし、道徳教育の指導計画に基づいて、道徳の時間を中心に各教科、総合的な学習の時間、特別活動、学校行事等とも関連を図りながら教育活動に取り組んでいる。

最近数年間は、「助け合い」「認め合い」をキーワードとして道徳教育の研究を進めてきた。具体的には、相手を意識した主題や主発問の設定、児童や教師の役割演技など体験的活動の導入、「道徳ノートの活用による自己の振り返り活動などを行ってきた。

その結果、子どもたちは自分の行動を振り返って今後の活動に生かそうとしたり、自己有用感を高めたり、相手を大切にしようとする態度を養ったりすることができるようになってきた。また、学校行事の中で子どもが活躍する場を設定することで道徳的価値観を意識できるようにして、地域の清掃に取り組んだり、高学年が低学年を大切にする気持ちを高めさせたりすることができた。

しかし、道徳の授業の中でより多面的・多角的な考えを引き出したり、議論したりするための授業展開の工夫のあり方、道徳の授業で得た道徳性について自らを振り返り、自分のよさに気付くことができる指導の工夫、教科化をふまえて、子どものよさをとらえる評価の方法が課題として明らかになっている。そこで、これまでの実践を基盤としながら、「考え、議論する道徳」　「自らを振り返り、道徳性を生かすことができる指導の工夫」　「子どものよさをとらえる道徳科の評価」を柱にして道徳教育の改善を図る必要があると考えた。以上の理由から本校の研究主題を設定した。

4　研究の概要及び特色

（1）　道徳の授業において、めざす子ども像

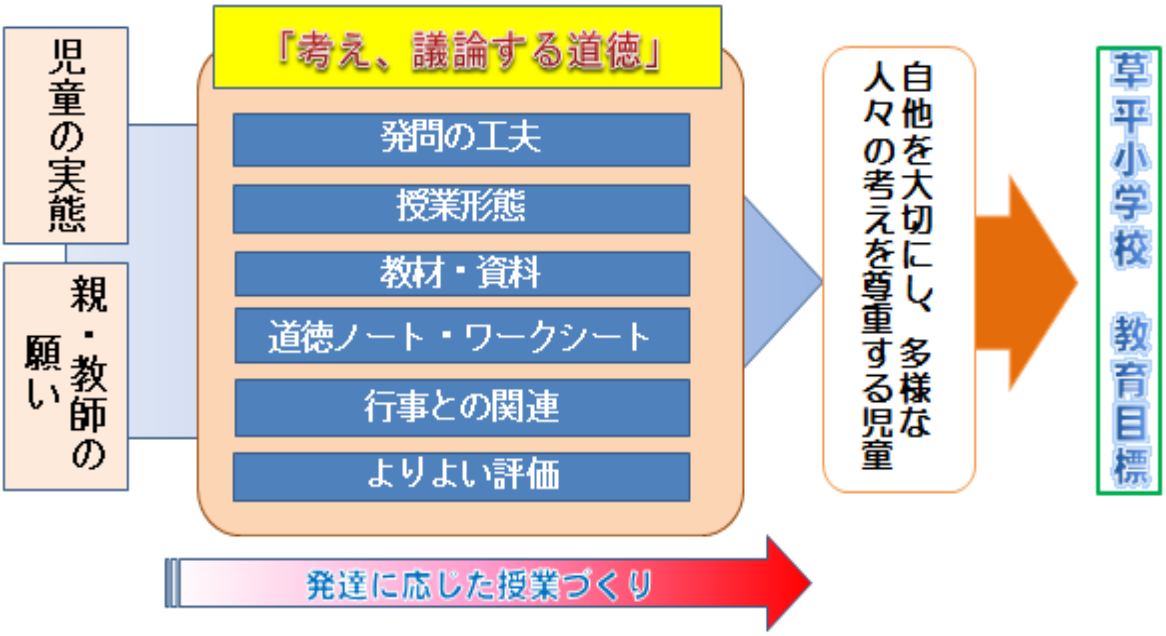
・　道徳の授業で積極的に自分の考えを発表し、話合いを行うことを通して、道徳的価値観に気付き、それに向けた自分自身の生き方や行動を考えることができる子ども。
・　授業で得た道徳的価値観を、日常生活で生かそうとする意欲をもつことができる。また、学校行事等を振り返り、よりよい生き方をしようとする子ども。
・　道徳の学習を振り返り、自分や周りの人のよさに気付いたり、これからの自分の行動について考えたりすることができる子ども。

　これらを通して、自他を大切にし、多様な人々の考えを尊重する子どもを育て、本校の教育目標に近づくことができるようにしていく。

（2）　研究の仮説

ア　「考え議論する道徳」への転換を進めることで、道徳的価値観について考えを深めることができる。
イ　学校行事等と関連付けした道徳の実践を行うことで、学校生活をよりよくしようとする意欲を高めることができる。
ウ　自分を振り返る時間をつくり、その方法を工夫することによって、自分や周りの人のよさに気付き、今後の自分の行動について意識を高めることができる。

（3）　研究構成図



（４）　研究の手立て

① 仮説アに関して
・　子どもが活発に発言し、議論することができるようにするため、発問、資料提示、授業形態の工夫を行う。

② 仮説イに関して
・　学校行事の前後に道徳の授業で関連する主題を取り上げ、積極的に行事に参加し、行事を振り返って学校生活をよりよくしていこうとする意識をもつことができるようにする。道徳年間指導計画の別葉を作成して、道徳と学校行事・教科等との関連付けを明確化する。

③ 仮説ウに関して
・　自分を振り返る場を設けるとともに、道徳ノートやワークシートを活用して、自分や周りの人のよさに気付き、今後の自分の行動について意識を高めることができるようにする。

５　研究の取組

（１）年間指導計画と全体計画の別葉の作成

研究を進めるにあたって、各学年で年間計画を見直すことにした。道徳推進教師を中心に、各学年の内容項目と教材を整理して一覧表に表し、項目ごとにどのような教材があるのかを一目でわかるようにした。**（資料①）**

【4年】

分類	内容項目	項目番号	ねらい	教材名	
				私たちの道徳	明るい心(◆)・他(○)
A 主として自分自身に関すること	善悪の判断、自律、自由と責任	A-(1)	正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。	正しいことは勇気をもって ◇よわむし太郎(2月)	◆ぼくだってこわい(9月)
	正直、誠実	A-(2)	過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。	正直に明るい心で ◇6セント半のおつり(12月)	◆一びきおおかみのそろり(11月) ◆ふくびき(12月) ◆百点を十回とれば(3月)
	節度、節制	A-(3)	自分でできることは自分でやり、安全に気をつけ、よく考えて行動し、節度のある生活をすること。	よく考えて節度ある生活を ◇少しだけなら(5月)	◆友だちのけっせき(5月) ◆輪投げはやめた(9月) ◆二分の一成人式(10月)
	個性の伸長	A-(4)	自分の特徴に気付き、長所を伸ばすこと。	自分の良い所をのばして ◇うれしく思えた日から(4月)	◆力持ちの新助さん(6月)
	希望と勇気、努力と強い意志	A-(5)	自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志を持ち、粘り強くやり抜くこと。	やろうと決めたことは最後まで ◇きっとできる(6月)	◆一輪車(10月) ◆国産自動車の父(2月)

【資料①年間指導計画の一部】

これによって、年間を見通して道徳を指導できると同時に、「明るい心」や「私たちの道徳」以外の教材も活用して、各項目について学習を行うことができるようにした。

また、「道徳全体計画の別葉」を学年ごとに整備した。

道徳全体計画の別葉　　愛西市立草平小学校（4）年

	学校行事	道徳の授業	学級活動	児童会・委員会活動	教科	総合的な学習の時間・外国語活動
4月	入学式　始業式 避難訓練、修学旅行	こだまでしょうかB-8 ブラッドレーのせい求書C-14 みんな待っているよC-15 うれしく思えた日からA-4	4年生になってA-5 学級の規律と係を作ろうC-13,15	1年生を迎える会C-14	理科「あたたかくなると」D-19 国語「春の風景」D-19	外国語活動C-17 「日本」について考えようC-16
5月	家庭訪問、野外活動	街のバスていりゅう所でC-11 友だちのけっせきA-3,1 ブランコ復活C-11 少しだけならA-3	挨拶活動について考えようC-13,15	JRC登録式 B-6	体育「かけっこ・リレー」B-9 体育「ソフトバレーボール」B-9 図画工作「光とかげから生まれる形」D-19	外国語活動C-17 「日本」について考えようC-17
6月	ふれあい学級 グリーン作戦	門番のマルコD-18,C-11 力持ちの新助さんA-4 たぬきのぽん太D-18 きっとできるA-5	遊びの工夫をしようA-3,C-11 お楽しみ会の計画を立てようC-15	グリーン作戦A-3	国語「夏の風景」D-19 体育「泳ぐ・泳ぐ運動」A-5 体育「マット運動」A-3,5	外国語活動C-17 二分の一成人式A-4,B-7
7月	終業式	雨がふってきてB-6,A-2 どうする？ちはるさんB-9,C-11	お楽しみ会をしようC-15 楽しい夏休みにしようC-11,A-5		理科「暑くなると」D-19 理科「夏の星」D-20	外国語活動C-17 二分の一成人式A-4,B-7

【資料②道徳全体計画の別葉の一部】

これは、道徳の授業と教科学習、学級活動、学校行事等の計画の関連付けを一覧表に表したものである。これにより、道徳の授業だけでなく、学校教育全体で道徳教育を進めていくことができることをめざした。**（資料②）**

今年度は、十分な計画が立てられたとはまだ言い難い。今後、道徳と各教科、学級活動、学校行事等を互いに関連付けさせることができるように指導計画を更に見直していく必要がある。

（２）学習会・授業研究会の実施

本校では研究を充実させるために、愛知学泉大学准教授前田治先生を招いた道徳の学習会・授業研究会を６回実施した。

第１回目の学習会では、まず道徳教育の本質や概念から始まり、資料の深い読み込み、子ども理解、学級経営の大切さ等について学んだ。これらの指導は、「考え、議論する道徳」をテーマとして研究を進めていく本校にとって大きな指針となった。そして、最後に基本の研究の流れと、授業創りの手順を教わった。

第２回目以降は、本校の授業研究会に参加していただき、授業について的確な指導・助言をいただくことができた。**（写真①②）**「資料の読み込みをしっかりと行い、子どもがどのような発

【写真①前田先生を招いた研究授業】

【写真②授業後の授業研究会】

言をするか予想して授業を構成する」「導入は短く、主発問にかける時間を長くとるようにする」「子どもの発言によって、授業の流れが変わることもある。指導案にこだわりすぎると授業のだいご味が薄れることがある」等、貴重なアドバイスをいただき、授業の改善に生かし、今後の方針を固めていくことができた。１月に教職員を対象に行った「道徳アンケート」では、「自校

の道徳に関する研修は充実していると思う」という設問に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答が 90%を超えており、教職員にとっても大変実になる学習会・授業研究会を行うことができたと考えられる。

（３）「読む道徳」から「考え、議論する道徳」への転換

①　２年生の実践

教材名「ポケット二つ」【C－⑩】規則の尊重 出　典『あかるいこころ　２年』（愛知県教育振興会）

ア　指導の実際

「人のものは相手にとってかけがえのないものであり、借りたものは大切に扱い、きちんと返す」という基本的なきまりを守ることの大切さを感じ取らせることができる教材である。大きな「トシくん」（ぼくの大切なおもちゃをなくしてしまった登場人物）の絵を提示し、ポケットの中に「悪い心」のカードを入れた。それにより大切なおもちゃをなくされた「ぼく」の嫌な気持ちを視覚的にとらえ、共感させることができた。**（写真③）**

また、「ぼく」と「トシくん」の役になってロールプレイを行った。**（写真④）**泣いているトシくんへの言葉がけを考えさせたかったが、「ぼく」の今までの悔しさを伝えるだけの子どもが多かった。

【写真③ポケットの様子が分かる絵】

【写真④ロールプレイの様子】

イ　子どもの変容

- ワークシートには、「借りた物は大切に使う」や「返すときには『ありがとう』と言う」などと記入している子どもが多かった。
- 友達の消しゴムなどを勝手に使ってしまう児童が数人いたが「貸してね」と声をかけることが多くなってきた。
- 友達の物に平気で落書きする子どもがいたが、この授業以後こうした姿が見られなくなった。

ウ　考察

実際にズボンの中に「悪い心」のカードを入れることで登場人物の気持ちを視覚的にとらえさせたり、ロールプレイをすることで、自分の問題として考えたりすることでき、有効な手立てだった。ロールプレイの方法については、今後さらに工夫していきたい。

② ４年生の実践

教材名「雨がふってきて」【B－⑥】親切・思いやり（関連事項【A－②】正直、誠実）
出　典『モラルジレンマ教材でする白熱討論の道徳授業　小学校編』（明治図書）

ア　指導の実際

本教材は、「親がいないときは、友達を家に連れてこないこと」という両親との約束を守ることと、雨にぬれてしまった友達への親切との間に葛藤を起こさせるモラルジレンマをもとに設定している。授業を通して、相手の置かれている状況を理解することや、相手の立場に立って考えることの大切さを考えさせたい。また、議論を通して、自分と反する立場の意見でも、納得できることは受け入れるという共感的な態度も養いたいと考えた。

この授業では、自分の気持ちの葛藤の度合いを視覚的にとらえることができる教材として、「葛藤メーター」を活用した。両端に「約束を守る」「約束を守らない」と書かれた「葛藤メーター」を掲示し、自分の気持ちに近い場所に名前カードを貼らせた。**（写真⑤）**

その後、赤白帽子を活用し「一人で帰る」「友達を連れて帰る」の二つの立場で議論した。立場を明確にして議論を行ったことで、議論が盛りあがった。**（写真⑥）**

議論の後、質問タイムを設けた。自分の立場を明確にするため、赤白帽子を活用した。質問をぶつけあうことでより意見が深まったと感じた。「自分のことよりも友達が大事」「友達に風邪をひいてほしくない」という友達を思いやる意見が出た。

【写真⑤葛藤メーターに名前を貼る様子】

【写真⑥話し合いの様子】

イ　子どもの変容

ワークシートに自分だったらどうするかを書かせた。「連れて帰る」は１９名で、「親友が困っているから」「自分は怒られても構わない」「風邪をひいてほしくない」と相手を思いやる意見が１６名、「友達の立場だったら嫌だから」と相手の立場に立った意見が３名いた。はじめ「一人で帰る」が９名いたが、この内、議論を通して「連れて帰る」に意見が変容した子どもが２名いた。この教材を通して、約束を守ることと友達に親切にする大切さの両方の立場を考えることができた。

ウ　考察

葛藤メーターに名前カードを貼ることで、考えを整理することができた。また、議論を通して、意見を変える子どもがいた。議論する中で葛藤メーターは友達の考えを視覚的にとらえ、考えを深めさせる点で有効だった。教材選択にあたっては、共感型かモラルジレンマ型かしっかりとらえたい。モラルジレンマの長所と短所をしっかり理解して実践したい。

③　１年生の実践

教材名「ぽんたとかんた」	善悪の判断、自律、自由と責任【A－①】
出　典『わたしたちの道徳　小学校１．２年生』（文部科学省）	

ア　指導の実際

本教材は、友達のかんたから、入ってはいけないといわれている裏山に「秘密基地があるから行こう」と誘われたぽんたが「ぼくは行かないよ」とはっきり告げる話である。授業を通して、「気持ちのよい生活を送るためにどのように考え、行動したらよいのかについて思考を深めさせたいと考えた。

１年生の子どもにも教材の話の流れをつかみやすくするため、教師がパペットを使った劇を行った。子どもを授業にのせ、教材の内容を視覚的にとらえさせることができた。**（写真⑦）**また、ロールプレイを行うことで自分が登場人物の立場だったらどうするかを考えさせたことで、登場人物がどのように考えて行動したのか表現できるようにした。**（写真⑧）**

これらの手立てにより、自分の考えを出しやすくなり、全体でも発表も活発になった。

【写真⑦パペット劇の様子】

【写真⑧ロールプレイの様子】

イ　子どもの変容

授業前半は「こわいから」「あぶないから」行かない、という考えの子どもが多数だった。「迷っている」と考えた意見を聞いたことから、違う立場の考えにふれ、「迷うけど、最後は自分で決めるしかない」と気付く子どもが出てきた。そして「かんたも行かないと決めてくれてうれしい」「わかってくれたからうれしい」と主人公が感じたから、にっこり笑ったんだという考えの深まりが見られた。この教材を通して、「人が言ったから」ではなく、「自分で考えて決める」ことが大切だという意識が芽生え、授業の主題に迫ることができた。

ウ　考察

パペット劇を行うことで、子どもたちを授業の流れにのせ、自分の問題としてとらえさせることができた。また、ロールプレイで、登場人物の気持ちや行動について実感したことにより、授業の話合い活動を活発に行うことができた。話合いの中で、違う意見も聞きながら自分の考えをまとめることができた。低学年の子どもたちでも、教材提示や授業形態の工夫によって「考え、議論する道徳」の授業を行うことが可能であると考えられる。

（４）自らを振り返り、道徳性を高めることができる指導の工夫

①　５年生の実践

教材名「ナイス・シュート」【B－⑩友情、信頼】
出　典『明るい心　５年』（愛知県教育振興会）

ア　指導の実際

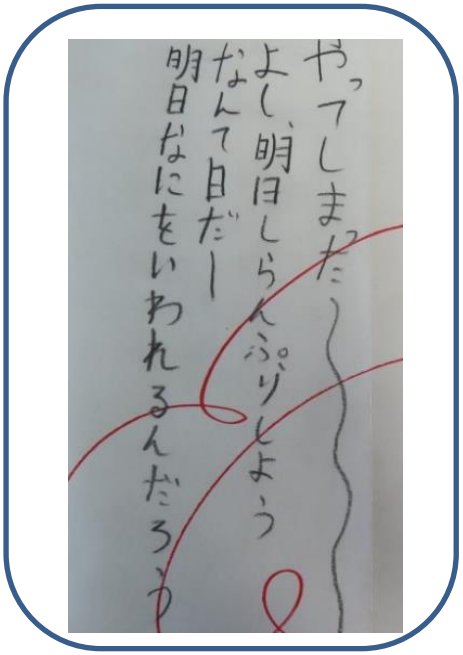
本教材は、はじめは男女間で協力することができなかったバスケットボールチームが、主人公の意識の変化によって声をかけあい､助け合うことができるようになっていく話である。野外活動の経験を組み合わせて、男女が協力して、仲よく生活することのよさを感じ取り、よりよい人間関係を築こうとする気持ちを高めたいと考えた。

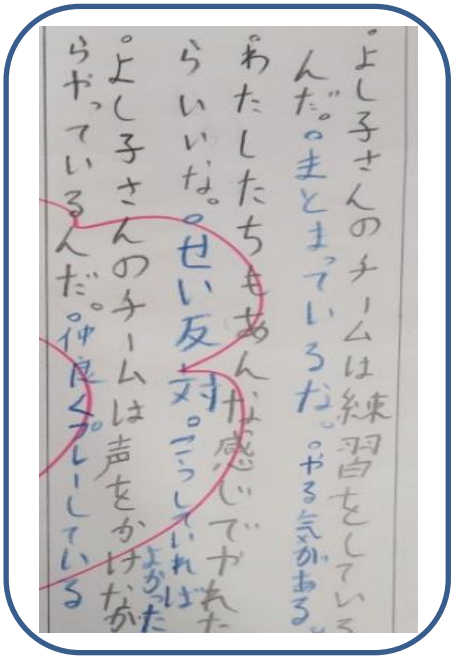
『明るい心』に挿絵がないものは新たに作り、視覚的に場面の状況を分かりやすくした。

友達の意見を聞いて、その内容を青鉛筆でワークシートに記入させることで、様々な考えがあることに気付かせることができた。授業の終末では、「男女が協力して、上手くできたことはありませんか」と自らを振り返る時間を設け、道徳的価値観を高めようとした。

イ　子どもの変容

以前に行った『一男君の約束』の授業で、思慮深く行動することの大切さについて文章に書き表していなかった子ども**（資料③）**が、「わたしたちもあんな感じでやれたらいいな」と書いていて意識に変化がみられた。**（資料④）**また、学級活動や各教科で班活動をする時に、自分の考えを言うだけでなく、友達の話を聞き、仲よく活動するようになった。学年当初に比べて、友達同士のトラブルの件数が減少した。





【資料③「一男君の約束」のワークシート】　　**【資料④「ナイス・シュート」のワークシート】**

ウ　考察

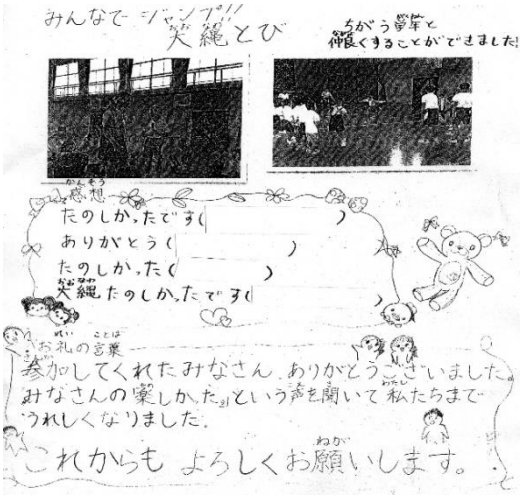
自分たちが行った行事と関連させて授業をすることで、自分を振り返り、どのように友達と関わるとよりよい生活になるのか考えることができた。また、友達の意見を聞くことで様々な考えを知ることができた。ワークシートからも、以前の実践と比べて心情の変容が見て取れた。

② 児童会の実践

ア 大縄とび大会

他学年との交流を深め、学年をこえて仲よく楽しくできるものとして「大縄とび大会」を企画した。

大縄とび大会を通して、高学年の子どもは、自分たちが楽しむよりも低学年の子どもに合わせて縄を回したり、縄を越えるタイミングを教えたりと相手を思いやる行動がみられた。低学年の子どもは、高学年の子どもと一緒に遊ぶ楽しさを感じながら、その優しさも感じることができた。**（資料⑤）**



【資料⑤児童会新聞より】

イ スリッパを整頓しようキャンペーン

トイレを使う人が気持ちよく使えるように、「スリッパを整頓しようキャンペーン」を企画した。スリッパに文字の書かれたカードを貼り、全てのスリッパをそろえると「きちんとそろえていい気持ち！」等の気持ちのよいメッセージが表れるようにした。**（写真⑨）**

スリッパをそろえるとメッセージが表れることに関心をもち、自分が使ったスリッパ以外もそろえている子どもも見られた。キャンペーンを実施する前と比べ、学校内のスリッパがそろうようになり、子どもの意識が高まった。

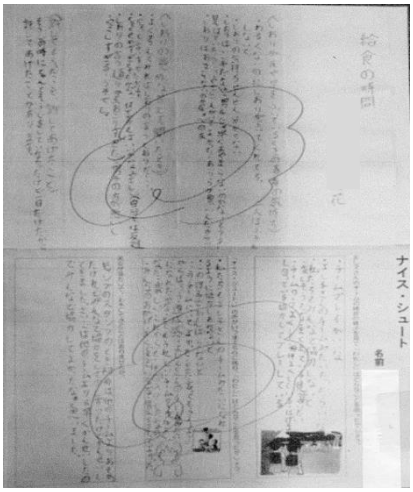
【写真⑨スリッパをそろえる子ども】

（5） 子どものよさをとらえる道徳性の評価の工夫

① 道徳ノートの活用

５年生では道徳ノートを積極的に活用した。道徳の授業で使用したワークシートを道徳ノートに貼ったり、考えたことを直接書いたりした。**（資料⑥⑦）**

そうすることで、考えを蓄積したり、以前考えたものを振り返り、成長を感じたりすることができた。また、教師は授業時の発言や様子だけなく、文章で子どもの変容を知ることができるため、評価する上の材料として有効な手段であると考えられる。



【資料⑥ワークシートの活用】

【資料⑦道徳ノートの一例】

（6） 子どもの発達段階に応じた、教室環境や教材の整備

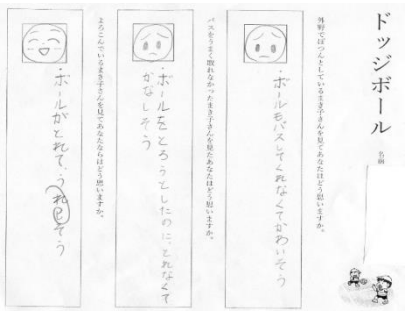
「考え、議論する道徳」への転換をめざして以下のような教材を作成した。自分の考えや立場を明確にするために「きもちカード」を作成し、活用している。笑顔、泣き顔、怒った顔等

を日めくり式のカードにして、その時の自分や登場人物の気持ちをカードで提示することで表現するものである。特に低学年の子どもたちには，立場を明らかにしたり、ワークシートや道徳ノート等に自分の考えをまとめたりしていく上で有効であると考えられる。**（写真⑩資料⑧）**

また、４年生の実践で使った「葛藤メーター」をより大型化して見やすく改良した。これらの教材を「道徳コーナー」に常備して、どの学年でもいつでも使うことができるようにした。**（写真⑪）**

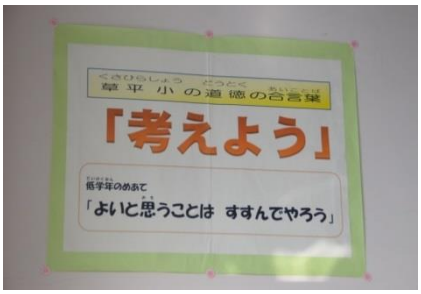
本校では発達段階に応じて道徳の目標を設定し、指導の重点を定めている。各教室に低・中・高学年ごとの目標を「道徳の合言葉」として掲示し、子どもたちが、常に目にできるようにした。**（写真⑫）**

【写真⑩きもちカードを使用した授業】



【資料⑧きもちカードを活用したワークシート】

【写真⑪道徳コーナー】



【写真⑫草平小の道徳の合言葉】

6　研究の評価

（1）研究の成果

①　仮説アに関して

教材の提示を工夫し、場面絵や拡大絵を利用して教材の内容理解を図ることができた。モラルジレンマ教材の使用や、葛藤メーターやきもちカード等の活用によって自分の考えを整理して話し合いにつないでいくことで、活発に意見を交わすことができるようになってきた。また、きもちカードの表情絵をワークシートに利用することで、自分の考えや立場を明確にすることができ、授業の構成に活用することができた。

②　仮説イに関して

行事と関連付けした教材を選び、これまでの自分を振り返る活動を行ったことにより友達の話を聞き、協力して仲よく行動しようとする気持ちの高まりがみられた。児童会の企画を通して、異年齢間の子どもで喜びや優しさを感じることができた。学校生活における子ども同士の意識の改善に役立った。

③　仮説ウに関して

道徳ノートやワークシートを利用して、自分の考えをまとめたり、友達の考えや授業で話し合った内容を書き加えたりすることによって子どもが学習したことの蓄積を図った。このようにすることで、子どもは自分の考えを振り返ることができた。また、教師は文章で子どものよさや考えの変容を具体的に知ることができ、授業の評価に活用することができた。

（2）今後の課題

①　子どもの考えをより深めていくため、主発問、補助発問をどのように工夫するか。

②　道徳と行事をどう関連付けさせ、子どもたちの行動をいかに意識付けさせるか。

③　自分を振り返る場で、何を求め、次にどう生かしていくかを明確にする。評価については、道徳ノートやワークシートからだけでなく、他の方法も探っていく。

以上の課題について次年度から取り組み、研究を継続していきたい。